



ジェンダー教育プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは？ (Gender Education Programの略)

私たちの大学では、2005年度より「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」(GenEP)プロジェクトが始まりました。これは、社会学部の教員が全学の教員と連携しながら、男女共同参画社会実現に向けた本学ならではのジェンダー教育プログラムの策定を目指した活動です。このGenEPプロジェクトの2年間の活動をへて、2007年度から新しいジェンダー教育のプログラムが始まりました。共学の大学として男子学生・女子学生が肩を並べて男女共同参画社会に向かう時代のトレンドを学び、相互の課題を受けとめあうことはとても大事なことです。昨年度は44科目が提供され、約4200名の学部生・大学院生が受講しました。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から学部・大学院科目まで体系的に組まれたこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待します。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
マーキュリータワー 6階 3617
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指すゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ？連携？

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいけるカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン？

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずで。

労働・経営・ジェンダー？

2005年に行われた「一橋大学における男女共同参画に関する学生の意識・実態調査」で多くの学生から受講希望のあった「労働とジェンダー」、「経営とジェンダー」をテーマとした講義が新設されています。ジェンダーをより身近にとらえ、自らのキャリアデザインを具体的に描いてみてください。

新しい社会科学？

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

進路を考える際、「女性の働く環境」ということをより意識して考えるようになった。

そうだったのかと気付いた。というのも、自分の中にもやっぱり差別的な感情はある程度あって、それを言い当ててもらった感じがしたからだと思う。

未知の世界を見せてもらった。もっと相手のことを知りたいと思った。

知らないうちに自分も「男とはこうあるべき」という考えを持っていたことに気付いた。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。

学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室 本館1階 「いまここ」HP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/index.htm>

■キャリア支援室 本館1階

■キャンパスライフ相談室 第1講義棟1階東側

セクシュアル・ハラスメントガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/guideline.htm>

相手の望まない性的な言動やジェンダー(性別)役割を押しつけることはセクシュアル・ハラスメントになります。一橋大学はその防止と排除のための措置、また問題が生じた場合の適切な措置のためのガイドラインを定めています。

男女共同参画時代のキャリアデザイン

【全学共通／夏－木2】
コーディネーター：西山昭彦(東京ガス西山経営研究所所長)／オムニバス
人材のダイバーシティ、男女共同参画、ワークライフバランスなど、新たな社会的トレンドの背景と具体的な実践例を学ぶ場を提供します。企業で活躍する本学卒業生、官界で男女共同参画に携わる方々、経営トップの方々によるオムニバスです。

ジェンダーと心理学

【全学共通／冬－水2】
柘植道子
社会における性別の持つ意味や問題に心理学の視点からアプローチします。心理学の理論のなかでジェンダーはどのように捉えられ、研究されているのか。ジェンダーとメンタルヘルスにはどのような関係があるのかについて学んでいきます。

家族社会学

【社・発展／夏－木3】
木本喜美子
現代家族がかかえる問題を明らかにするために、家族の歴史変動過程を重視し、その把握と解析方法をめぐって理論的立場を異にする見解に検討を加えていきます。ジェンダー・アプローチが焦点となります。

★新設★ ジェンダー論

【社・発展／冬－火3】
佐藤文香
ジェンダー関係を分析するフェミニズム理論の基本的立場をおさえた上で、労働・家族・国家などのテーマごとにその理論的争点を検証していきます。

大 学 院

◆基幹科目◆

先端課題研究7「日常実践／方法としてのジェンダー」

【金5】
コーディネーター：木本喜美子・貴堂嘉之
社会学・歴史学・人類学・思想/哲学、文学などの専門領域をこえて、3年間にわたり共同研究を行い、日常空間のなかで作動するジェンダーに関わる諸問題(労働・家族・身体/生命・アイデンティティ・権力・市民社会など)を可視化し、いかに対象化し研究として立ち上げていくことができるかを追究するプロジェクトです。

社会科学のなかのジェンダー

【夏－木2】
コーディネーター：貴堂嘉之・佐藤文香／オムニバス形式
既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義。

ジェンダー関係論

【冬－木4】
佐藤文香
ジェンダー研究の洋書講読を行います。2008年度はフェミニスト国際関係論の代表的論者のテキストを講読しつつ、その方法論的課題について考察します。

ヒューマン・セクソロジー

【全学共通／夏－火2】
村瀬幸浩
男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性(Sexuality)の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

ジェンダーと社会

【社・基礎／夏－水1】
佐藤文香
ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマ別にジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

労働とジェンダー

【社・発展 ※／冬－金3】
コーディネーター：木本喜美子／オムニバス形式
労働の現実的な変動諸過程に対する幅広い専門的知識の獲得をめざして、転換期における企業社会の編成、若者就労問題、過労死問題やグローバルイゼーション、ワークライフバランス、企業の社会的責任など、ジェンダーの視点から論じます。

2008年度 基幹科目

学部7科目、大学院3科目、計10科目開講

◆連携科目◆

★	法	冬－金3	Gender and International Relations	前田眞理子
○	社	通年－月4	民族誌論	石井 美保
○	社	夏－月2	地球市民論	関 啓子
○	社	夏－火1	文化と政策	足羽與志子
○	社	夏－火2	地球社会情報論／社会学	多田 治
◎	社	夏－火4	文芸思想研究	井川ちとせ
○	社	夏－水2	地球社会と紛争	足羽與志子
○	社	夏－木1	アメリカ研究	中野 聡
○	社	夏－木3	まちづくり・社会起業論	林 大樹
○	社	冬－火1	社会政策史	高田 一夫
◎	社	冬－火2	アメリカ研究	貴堂 嘉之
◎	社	冬－火4	アジア社会史Ⅱ	坂元ひろ子
○	社	冬－水2	現代情報社会の理論	多田 治
○	社	冬－水2	地球社会と生命	宮地 尚子
○	社	冬－木2	社会科学の基礎Ⅴ	深澤 英隆
★	社	冬－金2	社会学	木本喜美子
◎	言社	夏－火3	言語文化論系基礎講義	三浦 玲一
◎	言社	冬－水2	欧米言語文化論(英語圏)Ⅲ	中井亜佐子

全学共通科目

◎	夏－水2	地域文化論(イギリス)Ⅱ	中井亜佐子
◎	夏－水2	教養ゼミ	三浦 玲一
○	夏－木2／冬－木2	まちづくり(2008夏・冬)	林大樹ほか
○	夏－木3	Intro to Counseling Psychology	柘植 道子
◎	夏－木4	教育と経済Ⅰ	松塚ゆかり
○	夏－金2	教育と社会	関 啓子
◎	冬－木4	教育と経済Ⅱ	松塚ゆかり
◎	冬－火2・金2	教養ゼミ	坂 なつこ

学 部

○	商(発)	冬－火2/金2	企業社会論	谷本 寛治
○	経(発)	冬－月2/水2	労働経済学	川口 大司
★	社(導)	夏－水2	社会研究入門ゼミ	佐藤 文香
○	社(導)	冬－水2	社会研究入門ゼミ	森村 敏巳
○	社(導)	冬－木3	社会研究入門ゼミ	中野 聡
○	社(導)	冬－火2	社会研究入門ゼミ(オムニバス)	宮地尚子ほか
◎	社(基)	夏－月2	国際社会学Ⅰ	伊藤 るり
◎	社(基)	夏－月4	社会・人文の日本語Ⅰ	河野 理恵
◎	社(基)	夏－火2	アメリカ社会史総論	貴堂 嘉之
○	社(基)	夏－水2	社会学理論	多田 治
○	社(基)	夏－金1	市民社会論	高田 一夫
○	社(基)	夏－金2	人間環境論	林 大樹
○	社(基)	冬－火1	社会人類学総論	石井 美保
○	社(基)	冬－金2	スポーツ社会学の基礎	坂 なつこ
○	社(基)	冬－金4	現代労働組合論Ⅱ	浅見 靖仁
○	社(発)	夏－水2 ※	社会人類学特論	岡崎 彰
◎	社(発)	夏－木1 ※	ヨーロッパ思想史特論	佐藤 和哉
★	社(発)	冬－月2	アジアの社会と文化	洪 郁如
◎	社(発)	冬－月3 ※	アジア思想史特論	坂元ひろ子
○	社(発)	冬－水2	国際社会と文化	定松 文
○	社(発)	冬－木1 ※	アメリカ社会史特論	中野 聡
★	社(発)	冬－木3 ※	社会調査特問	木本喜美子
○	社(発)	冬－金1	福祉社会論	高田 一夫
○	社(発)	冬－金2	コミュニティ政策論	林 大樹
○	社(発)	冬－金3 ※	環境教育学	関 啓子

＜講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安＞

★：講義全体をジェンダーの視点から構成する
◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする
○：ジェンダーについて1, 2回取り上げる

※は学部・大学院共通。

委細は各授業のオリエンテーションで確認してください。また履修登録の際には、学習計画ガイドブック(学部)／学生便覧講義要項(大学院)に従って下さい。